

第6回我孫子市部活動地域移行検討委員会 議事録

1. 会議名称	第6回我孫子市部活動地域移行検討委員会
2. 開催日時	令和6年11月5日（火）17時30分～18時30分
3. 開催場所	我孫子市教育委員会大会議室
4. 出席者	【委員】 藤原委員長、鈴木副委員長、中村委員、近藤委員、岡島委員、藤間委員、川田委員、吉川委員 【事務局】 丸教育長 菊地生涯学習部長 山田教育総務部長 （文化・スポーツ課）辻課長、永田課長補佐、四家主任主事、五十嵐主任主事 （指導課）森谷課長、塚田課長補佐、小山指導主事
5. 議題	（1）令和6年度実証事業について（経過報告） （2）令和7年度の取り組みについて （3）その他
6. 公開・非公開	公開
7. 傍聴人	1人

内容：

○開会の言葉

○委員長挨拶

○議題

○今後の検討委員会日程

○閉会の言葉

○議事録：

（事務局）

それでは定刻となりましたので、ただいまより第6回我孫子市部活動地域移行検討委員会を始めたいと思います。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は委員の過半数が出席のため、会議が成立することとなります。

なお我孫子市スポーツ推進委員連絡協議会の星野委員が諸事情により退任されたため、我孫子市スポーツ推進委員連絡協議会の岡島会長に後任をお願いしております。

前回も出席いただいておりますが、本日より委員として出席いただきます。岡島様よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方が1名いらっしゃいます。会議の最後に傍聴人の発言の機会を設けますので、傍聴人の方で発言したい方がいれば、1人1回3分以内で発言をお願いします。

それでは会議の初めに、資料の確認をさせていただきたいと思います。各席に配布しています資料を御確認ください。

まずは次第、次に第6回我孫子市部活動地域移行検討委員会資料と記した資料、また参考資料として我孫子市地域クラブ活動指導者マニュアルを配布しております。足りない資料があれば申し出願います。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。まずは藤原委員長ご挨拶をお願いいたします。

－藤原委員長挨拶－

はい。検討委員会は今回で6回目となります。本日は、実証事業の報告ということでご意見頂戴したく存じます。委員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは、要綱第6条により委員長が会議の議長となります。

議題に入る前に皆様にお願ひがあります。当会議の議事録を作成する必要があるた

め、発言をする際は前にあるマイクを通してお話いただけますようお願いいたします。

それではこれから議事に入ります。藤原委員長議事進行をお願いいたします。

（藤原委員長）

それでは改めてどうぞよろしくお願いします。

それでは議題に入らせていただきます。先程も申し上げましたように、本日は令和 6 年度実証事業についての経過報告になります。まず報告をお願いいたします。

（事務局）

はい。そうしましたら、第 6 回我孫子市部活動地域移行検討委員会のホチキス留めの資料に沿って説明の方させていただきます。

まず（1）の令和 6 年度実証事業についてですが、こちらは現状の経過報告となります。前回の委員会までも説明の方させていただいたとおり、大体 6 月くらいから学校等の調整を始めまして、保護者向けの説明会等を経て、9 月 6 日から白山中学校の卓球と陸上で活動の方を開始することができました。

参考資料としまして、本日は地域指導者マニュアルということで、旅費関係ですとか指導時間の関係などそういうものをまとめたマニュアルを皆様にお配りさせていただいております。確定版ということで配布の方をして、実際に指導者の方たちにもこちらに基づいて指導にあたってもらっているような形になりますが、まだ始まったばかりというところで、今後実状に合わせて更新の方をしていければなというふうに考えております。こちらに関しては、参考程度に帰宅されてからご確認いただければと思います。

実際に 9 月 7 日から活動開始しまして、大会等にも 9 月 10 月で出ているような状況です。大会に関しては、今まで顧問の先生方が引率をして会場まで行って、試合に出て、また引率をして帰るということをやっていたんですけども、こちらの大会の出場はあくまでも部活動として出ているということにはなりますが、現地集合現地解散といったような出場の形で、顧問の先生だけではなくて今回新たな指導者の方にも実際に大会の会場に行って指導など役割を果たしていただいているような状況です。

（2）の指導者の活動状況に関しましては、白山中の地域陸上クラブでチーフコーチ 1

名、アシスタントコーチ 1 名の合計 2 名で行っているような状況です。

こちらに関しては、チーフコーチが元々部活動指導員で指導にあたられていた方、もう 1 名はスポーツ協会からの推薦で指導にあたっているような状況です。

続いて、白山中の地域卓球クラブなんですけれども、こちらは男女それぞれの活動になりますので、チーフコーチ 2 名、アシスタントコーチ 3 名で陸上の方と同じように元々部活動指導員の方とスポーツ協会からの推薦というような形で、今指導にあたっていると考えております。このコーチの中の 1 名に関しましては、元々卓球部の顧問の先生で兼職兼業というような形で実際に動いているような状況です。

2 ページ目になるんですけれども、こちらは活動実績というところでどれくらい活動されたかというようなものを表しています。ここも参考程度になってしまうかもしれませんが、陸上に関しましては、9 月 10 月で 2 日間開催の大会にも出たりしていますので、合計 3 日間というような形になります。時間としては 9 月が 26 時間、10 月が 39 時間の指導時間というふうな実績になっています。卓球に関しては、ほぼ毎週活動があったような状況で、その中には大会もありますがこちらの活動時間というような形になっています。

まだ、移行したばかりということもありますので、顧問の先生も実際には学校に来て指導にあたっているような形にはなるんですけれども、今まで付き切りだったものが学校には来るけど部活動は見ないで、その時間に事務をすとかそういうような形で今進んでいるような状況です。ここに記載の時間全てが顧問の先生方の負担軽減になったというわけではありませんが、新しい指導者の方が入ったことによって、間違いなく顧問の先生方の負担というところは減ってはいるのかなというふうに考えております。

あと 9 月から変わった点につきましては、ここには記載していませんが、連絡体制のところも変わったような状況です。今まで顧問の先生方が直接生徒に次の週の予定などを共有していたところがアプリを導入しましたので、顧問の先生からもそうですし新しい指導者の方たちからも直接生徒や保護者に連絡が今できているような状況です。欠席などの連絡に関しましては、スケジュールのところで出欠の連絡をしたり、当日の場合に関しては、電話で欠席の連絡をすることもあるかなというふうに思いますが、アプリ上で欠席の連絡ができてということなど、細かいところに目を向ければまだまだいろいろな課題があるかなというふうに思いますが、概ね順調にスタート

しているかなというふうには考えております。令和6年度実証事業については以上になります。

（藤原委員長）

はい。ありがとうございました。ただいまの事務局の説明についてご質問等ございますでしょうか。

今のところ実証事業につきまして、いずれも概ね順調ということですね。

（事務局）

はい、そうですね。体制っていうものが変わったタイミングではあるので、例えば顧問の先生方と新しい指導者の方との連絡方法というところに関しては、アプリを使っているというところはあるんですが、もう少し改善というかスムーズにいく方法があるのかなと思ってはいます。ただ、顧問の先生からも新しい指導者からもそれから保護者や子ども達からも特に変わった9月から、やり方が変わったことで何かやりづらいとかそういうご意見はまだいただけてはいないです。

（藤原委員長）

はい。ありがとうございます。

（吉川委員）

すみません。今、9月から順調に進んでいるという説明がありましたが、今後、指導者の方も増やして、他校の部活動の種目に拡大していくという考えから、9月から始めている中で、この時期でうまくいっている点、また指導者が生徒との関わりの中で、指導もリーダーを中心にアシスタントコーチの方も手伝いながら順調にしている点などを保護者の方や子どもたちにも地域クラブというものが良いものだということをお知らせすることが大切ではないかと思います。

（事務局）

はい。令和7年度の話にも関わってくると思いますが、今回の白山中学校で始めた3部活に関しては、元々部活動指導員が入っていたからこそ準備不足の面があった中でも進められているかなというふうには考えています。

ただ、来年度もっと拡大をしてやっていくときには、もう少ししっかりと準備期間を取った上でやる必要があるというふうには考えています。その中で今年度、保護者に

説明の意味を込めて配布したリーフレットにつきましても更新していく必要があるというのと今年度の9月から開始した活動実績みたいなものを示していけるとイメージが掴みやすいのかなというふうに考えています。

それから、ちょっとまだ詳細な何月何日号というのは決まってないんですけれども、今は限られた人にしか周知できていないような状況ですので、2月か3月に市の広報を使って部活動に実際に関係がない人にも広く届くようにはしたいなというふうに思っています。

(吉川委員)

この資料にあるように指導者マニュアルですとか、資料3の連絡ツールや資料4のスポーツ安全保険ですとか、きちんと準備ができていますというようなこともぜひ周知をしていただいて、理解を得られるよう情報提供をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(藤原委員長)

ありがとうございます。今部活動に参加していない生徒さんやあるいはそのご家庭にもこうした地域移行の現状とそれから状況、そういったものが伝わればいいかなと思いますので、ぜひ積極的な情報提供をしていただければと思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

(川田委員)

令和7年度の取り組みのところで説明していただけるとは思うんですけれども、僕の方には何件か質問がありまして、保護者の中には地域移行でしょ？という形で、地域ごとのブロックを分けてやるような地域のクラブ活動というのを僕も想像はしてたんです。

我々保護者の中では、白山中で始まるんだよね。それは白山中しか駄目なの？という話なんですよ。僕の頭の中での想像図だと、例えば我孫子中は我孫子の中心として大きい学校ですから、そう考えた時に、例えば西側として白山中と久寺家中、東側で湖北中と湖北台中になるみたいな、そういう形で3つぐらいのブロックに分かれて地域移行すると僕も思っていましたし、保護者の中では地域移行というのは、結局1つの学校でなの？というお話があります。地域移行をして地域のクラブと言っても結局は学校1つ1つでできるのか、ブロックごとに分けてやるのか、保護者の中でもまだ理

解できていないところがあります。クラブチームに所属するというのは、そういう地域は決まっちゃっているのかどうか教えていただきたいです。

（事務局）

はい。令和7年度のところにも若干関係するところではあるかなというふうに思うんですけども、今年度に関しては、基本的に今白山中でやっている卓球と陸上のところには他校から入れますよというような案内はしていません。

ただ、来年度にできるかというのはちょっとまた置いといて、将来的にはもちろん地域移行のメリットとして挙げられる、単独で出られなくなってしまった部活動がどこかの拠点3ヶ所とか2ヶ所になって、そこに所属すればチームとして出ることができますというものは上がってくるかなというふうに思うので、これは競技や競技の人口によって、全然変わってくるかなというふうには思うんですけども、もちろん拠点化される競技も必ず出てくるかなというふうには考えています。

そのときには、例えば今布佐中に野球部がなくて、そっちに行けば入りますということになるので、その学校の生徒しか入れないというところにはならないと思います。

ただ今後、特定の指導者のところにだけに集まってしまったり、そういったものが課題として出てくるとは思いますので、その辺もクリアにしていきつつ仕組みや体制を整えていければいいかなと思っています。

（藤原委員長）

とにかく実証をやってみようということで白山中がモデルケースとして実施をしているわけですので、どうぞ来年度以降は徐々に拡大し、おっしゃったようにブロック3つぐらいに分けて指導ができればいいかなというふうには考えているということですね。

その他ございますでしょうか。

それでは議事進めさせていただきます。2でございます。令和7年度の取り組みについてご説明をお願いいたします。

（事務局）

はい。そうしましたら資料の2ページの令和7年度の取り組みについてです。ちょっと説明の前に確認をさせていただきたいんですけども、あくまでも今回の検討委

員会ではどこの部活動でどれくらいの数をやりますなどというところまでではなくて、大まかに令和7年度はこういう形でやっていきたいというところの説明が中心になりますので、より具体的なところに関してはこれからというような形になります。

(1)の主な方針のところなんですけれども、まず1つ目としては、令和6年度に実施した陸上と卓球の活動については、もちろん4月以降も継続して行っていくような形になります。

2つ目としては、全学校の複数部活動で地域移行をしていくというところで、国の方針でも令和8年度には全ての部活動で地域移行をするようにというところで、千葉県の方針も踏まえた上で、我孫子市においても令和8年度にそういう形になっていく予定です。来年度は全学校にできる限り広げて実施していくというところで、進めていきたいなというふうに考えております。

3つ目としては、文化部活動の地域移行に関してです。今年度は運動部活動しかできていないというところがありますので、令和7年度に関しては、文化部活動も地域移行の方を進めていきたいなというふうに考えております。

最後に管理・運営方法の検討というところなんですけれども、今年度、市とコーディネーターの方で、この地域クラブ活動の管理・運営を担っている状況です。

将来的にどういうところに担ってもらうかというところはあるんですけれども、今市の方とコーディネーターを中心に仕組み作りの検討をしておりますので、来年度はその部分に関してもより具体的な検討を進めた上で、令和8年度からまた新しい形でできればいいなというふうに考えております。

主な方針のところの具体的な取り組み内容なんですけれども、まず①番としては地域移行を検討する競技・活動というところで、1つ目はまず団体競技の移行を検討していきたいなと思っています。今年度、卓球と陸上というところでももちろん団体戦というものはあるんですけれども、どちらかというと今回は個人競技を取り組んだような形になります。団体競技では、1つの学校だけでは既に組めない学校があったり、拠点化というところも検討していかないとなりませんので、団体競技で6個あるところを3個に拠点化して土日の活動を進めていくなどそういうところも取り組んでいければいいのかなと思っています。もちろん団体競技だけではなくて、今年度取り組んだ陸上と卓球につきましても他の学校にもそれを広げて、同じ部活動をやっていくということも考えられると思います。

2つ目の文化部活動のところに関しては、主に合唱と吹奏楽が活動しているところになるんですけども、地域移行に向けた意見交換というものを今年度から行っていく、来年度に移行できればと思っています。

ただ、この2つの部活動が学校の教室を使っているというような特徴がありますので、やはりセキュリティ面のところで現状は学校の先生方がいるからできているというのがあると思いますが、そうではなくなったときの施設利用のことも併せて考えていく必要があると思います。

その他のところについては、先ほども言った陸上や卓球の今年度やった部分で他の学校でもやっていきたいなというところと、学校の先生方のご意見やそれから指導者になれる可能性があるスポーツ協会などとも意見交換をしながら考えていきたいなというふうに思っています。

②の管理体制は先ほど説明させていただいた通りです。

最後③の令和7年度地域移行までの流れになりますが、やはり今年度進めてきた両部活動というところが、時間に制約があり準備不足も否めないという状況の中進めて参りました。来年度に実施する部活動に関しても9月から開始というところは変わらないかなというふうに考えております。それを踏まえて、まず年内から1月くらいで学校長の方それから小中体連、専門部長、関係部活動の顧問と意見交換をしながらこの部活動でやっていけるかというのを具体的に決めていきたいなというふうに思います。

また、4月からは新入生が入ってきますので1月から2月くらいで保護者説明会の方をやって、3月から4月で指導者を実際に確保していきたいなというふうに思っています。5月から8月に関しては、9月から活動する上で指導者への研修であったりそういうところも含めて準備の方をしていきたいなというふうに思っています。指導者の研修の部分ですが、文化・スポーツ課の方で毎年12月に行っているスポーツ指導者養成講習会というものがあります。この講習会を地域移行にも関連させて来年度からやっていくというところで、現状12月にやっていたのを8月などに移して実施できないかというふうに検討をしているところです。

また、今行っているスポーツ指導者養成講習会には文化的な要素というものは入っていないんですけども、一緒にできるのかどうかも含めて内容も考えていきたいなというふうには思っています。

2 番の令和 7 年度の取り組みについては以上になります。

（藤原委員長）

ありがとうございました。1 つ確認をさせてください。今年度実証している白山中の陸上部と卓球部は、そのまま令和 7 年度 4 月からも継続して行う。そして来年度の 9 月に関しては、新しく地域移行を始めるということですね。

（事務局）

はい。その通りです。

（藤原委員長）

ありがとうございました。他にご質問ご意見等ございますでしょうか。

（中村委員）

実証事業中、それから来年の 4 月以降の話なんですけども、スポーツ安全保険の中身をよく見ますと学校管理下にある活動では、保険の対象になりませんよってということが明記されていて、学校管理か否かは学校長の判断ですということになっています。

そういう意味では、スポーツ安全保険に入ってるから大丈夫ですよと皆さんにアナウンスしてると思うんですけども、今やってる活動というのは完全に学校管理下ではないとか、学校管理下であるっていうのが非常にグレーな状態に思えるんですね。学校の施設は使ってるし、学校の先生と一緒に指導に来ていただいているし、それから引率の時も、先生が大体一緒に行ってるし、そこで事故が起こった場合には全く学校管理下ではないということを主張して、スポーツ保険の対象になるかどうかというあたりがちょっとよくわかってないので、その辺どう解釈したらいいかを 1 つ伺いたいのと、それからあとスポーツ安全保険を見ていると指導者については、過失のない限りは保険の対象になりますがちょっと過失があった場合には、保険の対象になりません。そうすると人間ですから、指導中に過失があって事故を起こしてしまったなど訴訟に巻き込まれましたなどあったときに、学校管理下であれば学校の先生はそういう状況になったときには学校が守りますけども、スポーツ安全保険が守れなかった場合はなかなか心配だなというところがありまして、特に安全保険がどこまでカバーしてるのかという辺りが、今指導してる人によく理解されているかどうか。

それから重要なのは、賠償責任については過失があるなしについて、過失がなかったことを証明しなきゃいけないという辺りは非常に難しい部分があって、裁判になったときに弁護士さんとかにも助けてもらわないといけない状態になるのか、まだ事故が起きていないので経験はないんですけども、あった場合にはどうなのかというのを踏まえておかないとこれから指導に当たる方たちに学校教育ではなくて、その辺にちょっと疑義があるとなかなかこの活動が指導者側から見て、安心して携われる仕事じゃないのかなとちょっと気になっていたんですけども、今やってる活動はどっちなんですかというあたりがどう判断されるかというのを知りたいんですけど。

（事務局）

まず、今の活動の中でのすみ分けに関して大会の部分は、あくまでも今どちらも学校で出ている状況ですので、これは学校の管理下ということになります。

顧問の先生や兼職兼業でやってる先生もいるんですけども、大会に関しては部活動の顧問というような立場で出ているような状況で、通常の土日の練習の部分に関してこれは地域クラブ活動になりますので、おっしゃってるように学校の施設を使っていて実際に学校の中には先生もいる状況なので、このすみ分けが難しいというところはあるかなというふうに思うんですけども、あくまでも活動に関しては地域クラブ活動ですので学校の管理下ではないです。

あとは、過失があったかというところはどこまでが指導者の過失に当たるのかというのはちょっと今すぐには答えられないですけども、その考え方が難しいかなというところはあります。

（中村委員）

過失のあるなしを証明するというのは、その事故が起きたときでもなかなか難しいことであって、今ここで説明していただくとは思ってないんですけども、その辺の過失のありなしに関しての訴訟上の対応について、指導者として携わってた人は誰に助けてもらえるのかなというのがちょっと知りたかったことなんです。

個人で対応するしかないんだと思うんですけどもね。

（藤原委員長）

今後指導してくださる方を集める段階において、今のことは非常に大事なことだと思います。ですので、ある意味こうしたマニュアルの様なものも作る必要もあるのか

なというふうに思います。他地域ではどうなのかというのもぜひお調べいただいて、ご検討いただければと思います。

（鈴木委員）

令和7年度の地域移行の流れなんですけど、12月までに学校内で来年度地域移行するところを定めていくということですよ。その中で、学校の中では生徒数が減って職員が減って部活動削減というものを検討しなきゃいけない時期になっています。

本校でも、生徒数は800人を超えてるんですが1000人以上いたときは、今7クラス8クラスですが10クラスから12クラスいたときの部活動を今維持しています。だから顧問数がもう足りないんですね。複数顧問ができなくなって教頭も当たっているという状況で来年度に向けていくつかを削減しなきゃいけない。でも来年からいきなりなくすことはできないので、来年の1年生から募集しなくてもあと3年かかるんですね。今の1年生は下級生が入ってくると思って入っているんで、もしそこに配慮して、来年度は募集するけど再来年の1年生から取りませんとなると4年かかるんですね。だいぶ長い時間かかって削減する。それでもしなくてはいけない状況になっております。

それを今度の新入生保護者会で明らかにしなきゃいけないんですね。今回の場合は1月17日になります。そこで方向性を言わなきゃいけないので、それまでに文化スポーツ課等の話を詰めていかなきゃいけないというふうに思ってます。その中で、やはり対象になるのは総合的に考えますが、例えば人数の少ない部活動となる訳ですが、この地域移行の中で、拠点校化などという案がもしあるならば早めに教えていただいて、そういう見通しで削減しないで地域で残していくということを考えていかなきゃいけないので、その辺を早めに教えてもらえるとありがたいなというふうに思ってます。

新入生保護者会は1月17日に行いますが、そこではこの地域移行については詳しくは説明できないと思いますので、1年生には入学してからの詳しい説明になるかなというふうに思っています。

また1月17日の新入生保護者会の中で、どうしてもこの地域移行については触れなきゃいけないと思うんですね。それが学校からの説明なのか、文化・スポーツ課から来てもらって説明して、質問等に答えてということが出来るのかどうか。その辺を相談していきたいなというふうに思っています。

あと、リーフレットですがこれ大変わかりやすく非常に良かったんですね。これについてはただ配るのではなくて、ちゃんと説明して配りましょうということで、各学年やクラスの差がないように原稿を作って、担任に説明させました。これについては各学校とも共有して、各学校で少しニュアンスと文章は違うと思いますが、必要なことは各学校で説明したと中学校長会では認識しております。こちら1年生2年生が対象だったんですね。3年生に当然あると思って、始めに原稿を作ったんですが、3年生は地域移行対象外ではあるんですが、3年生が最も早く地域の指導者になる可能性があるということを私は考えて3年にも啓発をしたかったんです。早く言えば1番早く大人になるので、もしかしたら高校生大学生で手伝ってくれるかもしれない子がいるかもしれないと、先ほどの話だと広報の方に1月2月にという話があったので、そこでぜひ今の若い子たち、中学生、高校生、大学生にも指導者になってくださいよというところをやっぱり指導者の確保が一番大事なところなので、その辺の文言というかその辺のニュアンスを織り込んで欲しいなと思います。どんな団体でも会員は集まるんですが指導者がなかなか集まらないっていうのは、どこの団体でも多分悩んでるとこなんじゃないかなというふうに私は思って、自分も総合型地域スポーツクラブにいて、やっぱり会員はどんどん入ってきますが指導者は確保できないので、そこが1番つらいところです。そこら辺の話がそういう広報の中に入ってくると大変今後の見通しとしては、明るくなるし必要かなというふうに思っています。

また、今の6年生に対しては、どういうふうに話をするかというところをちょっと聞きたいとこですね。例えば、6年生にこのチラシを同じようなものを配って、説明する機会を設けるとか、地域移行という話が噂というかあるんだろうなということは子どもたちもわかっていて、家庭でもわかっているんですが、それを受けてかどうか今年の1年生の入部加入率がぐっと下がったんですね。今までは90何%は入っていたのが86%しか入っていないというところで、2年生は少なくないので、入ってきた時点でこれは地域移行の影響なのかなということで、同様なことがやっぱ久寺家中とか湖北台中でも85%しか入っていないことで、地域移行を見越して何か習い事とかあるいは、他の外部のクラブとか、そういうところを選んでも家庭が多くなってきたのか、それとも何もやらない子が増えてきたのか、その分析ができてないんですが今の6年生に不安がないように、何か説明して部活動は継続します、地域移行としても継続しますという安心感を与えられればいいかなというふうに思ってます。

(事務局)

ありがとうございます。12月の時点で学校長やそれからスポーツ団体等も含めてそれから顧問の先生等も含めて、意見交換というのをきっちりやる予定になっておりますので、1月の時点でどこまで説明ができるかというのはまだわからないところあるんですけども、我孫子中学校では1月17日ということは、他の中学校でも同様の説明会などは開かれるということでしょうか。

(鈴木委員)

ちょっと日にちはわかりませんが、開かれます。

(事務局)

わかりました。そのあたりはこちら指導課の方とも上手く調整をして、できるだけ不安がないように保護者やいろんな方にお話ができるような機会を設けるべきかと思っておりますので、そこは説明を丁寧にしていきたいと思います。

それから、いただいたご意見でその若い担い手などということも意識はしなくてはいけないんだろうと思うんですけど、高校生になっていきなり指導者になれるかと言ったらそれは違うとは思うんですね。やはり指導者になるためには、それなりの経験を踏んだり、それから指導のための研修を受けたりなどということも必要になりますので、いずれにしてもその地域にまた戻ってきて、そういった環境の中で一緒に取り組んでもらえるということは非常にいいことだと思いますので、そういった目線も大事にしていきたいと思います。

あとは、小学校は特に5、6年生ですが前から話にありましたが、次に部活動として進んでいくような子たちがいる小学校高学年に対しても、やっぱりPRはしていく必要性はあると思います。

あと1番最後の加入率が下がったこととの因果関係というのは、直接はわかりません。ただ今までのアンケート調査等を見ると、とりあえずその学校にある部活動を選択するという方もいらっしゃるので、要は積極的に何かをするのではなくて、学校にそういう活動があるから入るという選択をされている方も結構いらっしゃいます。そういった形で言うと、今後地域移行のクラブというのがあるのかなのかというのがわからないときに、小学校から早めに今までやってきたスポーツ少年団での取り組みだとか、そういったものを継続するだとかいろんな選択肢が出てくるかと思うので、全て100%部活動でそれを吸収するのではなく、今ある地域クラブに入るとするのもそれは地域のいわゆるスポーツ活動に継続しているという形でそれはそれとしていい

形だと思うので、そこはPRをしていい選択ができるように促していきたいと考えてます。

(藤原委員長)

ありがとうございました。

スポーツのクラブ活動への加入に関してなんですが、今運動スポーツに関する調査を見ても子どものスポーツ実施率の二極化が進んでいて、しない子は全然しない、する子は毎日のようにするというふうに二極化になっていることを考えると、少し下がっているのも何となく理解できるような気がいたします。

ただ一つお願いでございますが、7年度から実施できるかどうかは別にして、今回のこの地域移行の一つのメリットと考えておりますのが、中学に部活動のない種目を地域のどこかで開催できないかなとそういうようなことを期待しております。

例えば、お茶やお花であるとかですね、バドミントンもそうですがそういうようなものがどこか地域の中でできないかということが部活動へ加入していない生徒さん、あるいは保護者の受け皿にならないかなというふうに考えております。ぜひご検討いただければと思います。

その他ご意見ご感想でも構いません、ございませんでしょうか。

(近藤委員)

スポーツ少年団の近藤でございます。特別、スポーツ少年団では子どもたちに対して、中学に入って部活動をどうのこうのということは、今実際説明していません。

ただ、子どもたちがいろいろ周りから聞いて例えば野球なんかは、中学の野球のクラブができたりいろいろしてますんで聞いているとは思いますが、中学に行って部活動はこれから先こういうふうになるんだよということは、今スポーツ少年団の子どもたちには実際に説明していません。

ですから、早い時期に説明する必要があるのかなというふうには思っています。先ほどもありましたように部活は嫌だと言われても困るので、できれば簡単に説明していきたいと思います。

それと、先ほど鈴木校長の方からお話がありましたけども、かつて中学で部活をやっていた子が高校へ入って、引き続き自分の中学へ帰ってきてお手伝いするというのも

いろいろあったんですけど、ただ関わり合いがない子には部活の指導員になれるということを全然 PR ができないんですよね。我々大人になると、スポーツ協会の絡みがあるとスポーツ協会からアナウンスが来て、我々もスポーツ少年団の指導者には連絡ができるんですけど、我々のチームに来ている若い子たちにもこれがあるよということを伝えていければと思います。

とにかく子どもに 1 番近い年齢の人たちが指導するのが、私は 1 番いいんじゃないかと思っていますので、そういった面で指導者の育成もスポーツ協会を含めて、我々もやっていかなければいけないなと思っています。スポーツ少年団としてはそういう考えであります。

(藤原委員長)

ありがとうございました。その他ございますか。

(藤間委員)

委員長さんの言ってくださいました文化部の合唱、吹奏楽そういうのではなくもう少し伝統的な文化でお茶お花とか書道などそういうものを取り入れていただけると、私ども文化連盟としてはとてもお手伝いのしがいがあるなと思うんですが、でもそういうものは競技ではなく、あくまで習い事ですので、部活動にするにはちょっと無理があるような気がします。

ですので、前にも申し上げたと思いますが、1 日で完結する体験というのを伝統文化のジャンルでするところをお考えいただけますと、とても私達にとっては願ってもないことかなと思います。

(事務局)

実際に、今おっしゃっていただけたような体験会から始めていくことで、なかなか普段触れる機会が少ない子もたくさんいると思うので、そういうところから始めていて、その先に地域クラブ活動の中の一つとして固定できるものは固定してもいいかなというふうに思いますので、まずはきっかけ作りというところから始めていければと思います。

(藤原委員長)

その他いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、3のその他の説明をお願いします。

(事務局)

資料の3ページ目になります。

その他につきましては、今回1つだけになるんですけども、ブカツ未来アクションに関しまして、以前皆様にはメールまた資料の方で共有させていただいたものになります。なかなか直接ご説明する機会がなく大変申し訳ないところではありますが、ここに書いてあるとおり、このブカツ未来アクションに関しては、今後我孫子市の中でこれが部活動の地域移行に直結するかどうかというところまではまだわからないんですけども、地域移行の中に良い面は取り入れていければなというふうに考えているような状況です。その中には、1人が複数のスポーツを同時期に行うマルチスポーツというものとデジタル活用をして子どもたちのスポーツ活動、文化活動をサポートしていけないかというところで、今回取り組んでいるようなものになります。

この事業に関しては、NEC（日本電気株式会社）さんの方からいただいた話になります。全5回我孫子市の方で行う事業となっていて、県内では初めての取り組みというふうなものになります。NECさん以外にもヤマダホールディングス株式会社さんであったり、明治グループの株式会社明治アドエージェンシーさんが協力企業ということで関わっているようなものになります。

我孫子で行う事業に関しては、NECさんが主体的に行っているような事業になりました。NECさんの中でラグビーチームとバレーボールチームを持っていますので、そういうプロスポーツチームのノウハウであったりとか、NECさんのメソッドベースというふうなデジタルツールになりますが、そういうものを活用してスポーツ活動、文化活動に取り組めないかというところで試験的に行っているようなものになります。このメソッドベースというのですが、名前だけですとちょっとわかりづらいかなと思うんですけども、例えばNECさんのプロ選手などが考案したトレーニングメニューや選手だけではなくてトレーナーさんもいらっしゃいますので、そういうトレーナーが考えた体幹トレーニングメニューというものをデジタル上のメソッドベースの中に組み入れて、それを指導者であったり、子どもたちがいつでも見られるような環境を提供していくというふうなものになっています。こういったデジタルの部分を活用することで、指導者の質の向上であったり指導者の確保に繋がってくるかなというふうに考えています。

ただ、現在指導にあたっている方にこれを強制的に使ってくださいというものではなくて、あくまでもこういうものを使うことによって負担軽減が図れないかなというところで試験的に使ってみたいなというふうに考えています。

あとは NEC さんの協力という部分もありますので、活動場所の確保にも繋がるかなと考えています。

第 1 回目、第 2 回目が終わったところになっていまして、下の写真が実際に活動したときの様子で、一番右に関しては、NEC さんのラグビーグラウンドを借りて行ったようなものになります。この日に関しては、このグラウンドと陸上用の直線ですけどトラック、それから室内のトレーニングルームをお借りして行いました。

こういった部活動地域移行のタイミングもありますので、NEC さんの中でも施設の活用を検討していきたいというような形でお話をいただいております。これから拠点化していくときにやはり施設が足りていない部分もあるかなというふうに思いますので、こういう地元企業の協力も得ながら施設の面もクリアできればいいのかなというふうには考えております。

その他にも協力企業がおりますので、実際にヤマダホールディングスさんの陸上部の方が来ていただいて 1 回目の指導に当たっていただきました。

また、明治アドエージェンシーさんは広告代理店会社になりますので、実際にこれからの動きにはなってきますが、例えば NEC さんのグラウンドを使って、スクールみたいなものを開いて、その収益の一部を部活動地域移行に還元するですとか、もちろん協賛企業を集めるというのもそうなんですけれどもそういったことも考えていただいている状況です。

今後令和 8 年度以降には、受益者負担というのも始まってきますので、少しでも家庭の負担を低減させられるような取り組みに繋がればいいなと考えております。

4 ページ目が今後の予定のところになるんですけれども、残り 3 回部活未来アクションを行う予定です。

この事業に関しては、実技の部分もそうですが保護者の方も参加できる座学も同時に開催をしております。実際に保護者の方にもたくさん来ていただいておりまして、様々なスポーツをやりながら、自分の好きな競技にそれを生かしてもいいですし新しく自分が得意なものを見つけるきっかけにもなればいいかなというふうには思ってい

ます。

今後の予定としましては、11月24日、12月8日、12月15日の全5回というところで事業が一度完結になります。4回目と5回目に関しましては、先ほどのデジタル活用の部分になってくるんですけれども、事前に学生さんにご応募いただきまして、NECさんの方からメソッドベースを使いながら事前に学生さんに指導方法であったりを学習していただいて、実際に指導にあたっていただくというような想定をしています。もちろん学生さん1人2人だけだと大変だと思いますので、NECグリーンロケッツそれからヤマダホールディングスの陸上部の方にも来ていただいて、サポートを受けながら行っていく形になります。

その学生さんの派遣のところにしましては、中央学院大学さんと川村学園女子大学さんに一度説明の方をさせていただいております。今回の活動だけに限らず、今後そういう大学連携は大切になるかなと思いますので、この4回目、5回目で実際に学生さんに出ていただいて、指導していただいた結果を見ながら大学との連携を模索していければいいかなというふうに考えております。

最後になりますが、この事業を通じてというところで今回のこの5回のプレ事業だけで終わってしまうと少し勿体ないかなという気がしますので、例えば毎月1回ですとか定例的に行うことも今検討しているような状況です。そのうえで、地域クラブ活動をしていくときに、一つ我孫子市の特色みたいなものになりうる可能性もあるかなというふうには思っています。

2つ目としては、NECという地元の企業との連携もかなり密になってきているような状況です。企業の施設の利用、それからプロスポーツチームのノウハウというものを取り入れていけるかなというところで、ここも期待をしたいなというふうに考えております。また、先ほども言ったとおりデジタル活用の部分でもサポートを受けていければなというふうには思っております。

簡単な説明になるんですけれども、その他ブカツ未来アクションの説明について以上になります。

(藤原委員長)

はい。ありがとうございます。このブカツ未来アクション事業がまだ始まったばかりのようです。ですので、あまり事例というものがホームページ上でも見当たらなかったのですが、NECが我孫子にあるということで声が掛かったのだと思います。あ

くまで、今年度の5回というのはお試しということで今後それを導入するかどうかというのはまた改めて検討するということでした。

ただいまの説明につきまして、何かご意見ございますでしょうか。

（中村委員）

新しい形というかそういう活動の1つとしてこういう形で出てくることは非常に大歓迎だと思うんですけども、まず5回が終わった後にどうしていくかというのを誰がいつどうやって決めるのかというのはよくわかんないんですけども、こういうことはもし続けていけるのであれば、何とか継続していただいて、お試しだけではなくて少し試行的なところも含めてやっていただきたいというのは、私の今聞いた率直な意見です。それから、ここに受益者として参加する人たちのイメージが、各中学校の今部活動をやっている人とこれから部活動をする人たちが中心と思ってよろしいのでしょうか。

（事務局）

実際に今回参加されている方に関しては、小学校5年生から中学校2年生までの方が参加していただいているような状況です。

1回目は陸上とラグビー、2回目はバレーボールを行いました。その競技を今やっている方や例えば野球部の子が来てくれたりとかそういうこともありましたので、最終的にどうなるかというのはまだわからないけれども、平日は自分がやっている部活動をやっている、土日はマルチスポーツでいろんなスポーツをやってみたい子が出てくるといふこともあるかなと思いますので、そういう受け皿の一つになる可能性もあるかなというふうには考えております。

（中村委員）

スポーツ協会としては、なかなかマルチスポーツの推進というものがうまくできていなくて、総合型地域スポーツクラブではマルチスポーツということを進めていただいていると思うんですけども、そういう意味ではこうやってマルチなスポーツで育った皆さんが、将来的に総合型地域スポーツクラブのメンバーになったりして、どんどん新しい形のスポーツ活動が市内で広がっていくきっかけになってくれれば非常にいいことではないかと思うので、NECさんがこういうことを始めてくださったことが大変評判になって、また皆さんに喜ばれて、それを継続していける環境を作ってい

くにはどうしたらいいかというのはちょっと気になるんですね。

やっぱり事業というか、NEC さんといえど営利企業なので、やっぱりその地域還元ですとかそういうものの一環でされていくと思うんですけども、行政とか地域の住民との関係ですとかそういうところと良い関係がうまく作れば、継続性を持ってこういうことに取り組んでいただけたらと思うのですが、我々がどう動いていいかわからないのである意味では先行的にそういう実施をしていただいた上で、こういう場でもいいですいろいろな場でこういう民間の企業さんが社会的貢献ということの一環も含めて、継続的な活動を展開していただけたら何か取っ掛かりになってくれれば大変歓迎したいなと思っていますので、よろしくお願いしますと思います。

（藤原委員長）

その他ございますでしょうか。

（事務局）

指導課です。少し戻りますが来年度の実証事業に向けて、あるいは8年度の地域移行に向けて、指導者の確保というところはずっと課題となっていると思います。今年も部活動指導員から実証事業のクラブ指導者という形で円滑に移行ができてる部分もあると思いますので、来年も部活動指導員の拡充というのを図っていきたいなと考えています。単独で指導するという事はなかなかすぐには難しいと思うんですが、実際に学校の部活動の方に顧問と連携して、理解のある指導者を増やしていきたいなと考えています。

今年度につきましては、12月1日号広報あびこで部活動指導員の説明会について、広く市民に周知をしたいと考えています。実施するのは、12月21日22日の土曜日、日曜日の2日間で2回に分けてどちらかで参加してくださいということで、広報の方またこれから小中学校の方にも案内を出して保護者の方に周知をして、部活動指導員がなかなか難しいということであれば、ボランティアであっても構いませんのでそういったところを説明していきたいと思っております。

以上です。

（藤原委員長）

ありがとうございました。その他ございますか。

(川田委員)

今の部活動指導員のことになるんですけれども、今白山中の地域陸上クラブ、卓球クラブで元部活動指導員 1 名、元部活動指導員 2 名となっているんですけれども、これはクラブチームの指導者になったら、部活動指導員は抜けなきゃいけないという捉え方で間違いないですか？

そうなってくると、今のところなんですけれどもこの先生には兼職兼業というのは基本的にはずっとになるんですか？それとも今ここで白山中の卓球の方なんですけれども、兼職兼業の方が 1 名いらっしゃるんですけれども、それは土日だけになってるわけですか？

そういう形で、部活動指導員とクラブチームの指導者というのは完全にわかれると捉えていいわけですね。

(事務局)

そうです。

(藤原委員長)

その他いかがでございましょう。

本日傍聴の方がいらっしゃいます。最後に傍聴の方の発言の機会を設けます。発言をなさりたいということであれば、1 回 3 分以内でご発言をお願いいたします。

それでは本日の議題は以上でございます。最後に事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

本日、最初マイクのトラブルで大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

次回の検討委員会に関しましては、令和 7 年 3 月 11 日火曜日 17 時からで予定をしております。

来年度に取り組む具体的な内容のところと今年度 9 月から実証をやってみてどうだったかというところは報告できると考えています。その間に何かいろいろ動きがあると思いますので、その際はメール等で共有の方させていただきます。

実際に今、9 月から卓球と陸上の方で動いていますので、一度活動の様子を見ること

ができる機会を設けたいなというふうには考えております。どうしてもピンポイントの日程になってしまうかなとは思いますが、また改めてご連絡させていただきますので、希望があればご参加いただければと思います。

以上です。

（藤原委員長）

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。委員の皆様どうもありがとうございました。